

高齢者のやまねの家 やまね



なかよし広場

角野保育園「なかよし広場」

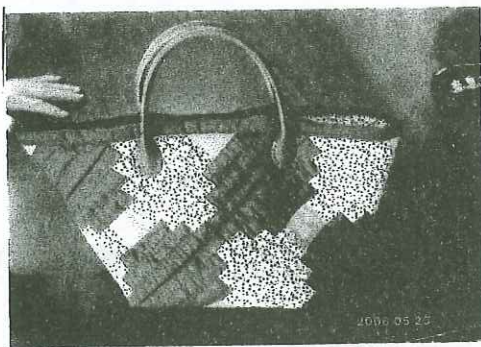
こどもたちと父兄、先生それに近くの高齢者との交流が角野保育園で5月24日にありました。

招待を受けましたので、「やまね」からも参加しました。

ボランティアの歌やおどり、父兄の手作りの出しものなどがあり、楽しいひとときを過ごしました。

「そーっ」と置かれた

素晴らしいマイバッグ



趣味のパッチワークがさらに進んで、見事に出来上がったマイバッグ。それが「そーっ」とテーブルの上に置かれました。

その作品を見てみんなびっくり。誰もが思わず「うわー」と驚嘆の声をあげました。

だより

No. 18

発行者 ボランティアグループ なの花

代表 森田 元治

発行所 792-0834 新居浜市中西町16-20

「やまね」Tel 0897 41-0104

発行日 2008. 7.20

バッグを作られた本人も、その出来栄えに満足されていました。

大きさ、かたち、色彩そして機能性からしてとても素晴らしい作品です。

知人に写真を撮って送られたと聞きましたが、きっとそれを見て驚いておられることでしょう。

ほかの方の励みにもなります。

紙粘土で作品に挑戦

趣味をいっしょにしている方の手ほどきで、初めて紙粘土に挑戦しました。

粘土はなるべく柔らかくなるようによく手で練りこむように。

干割れを防ぐにはよく練りこむことと注意を受けました

まだ、未完成ですが、そのうち作品が出来上がるでしょう。

そんな気持ちで、ゆっくりゆっくり進めていきます。



布ぞうり

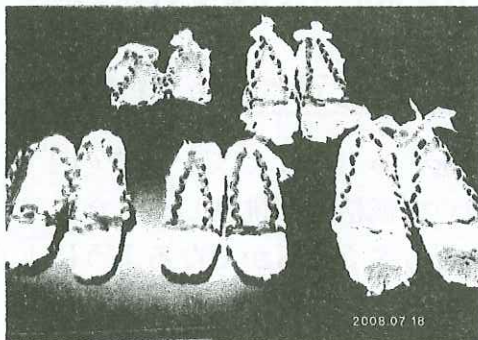
先般、近くにお住まいの方から布ぞうりをつくって欲しいとの依頼を受けました。

依頼を受けたときは、ぞうりを作るのに適した材料がなかったため、すぐには出来ないで、材料がそろい次第作るむねを話して了解を得ました。

何足かを試作して、「やまね」のショーウインドに展示することにし、その中から足に合ったものを選んでいただくことにしました。

いい生地がそろって編んだぞうりは、とても柔らかい感じがします。

これからは、「やまね」を利用している方もぞうりづくりをしたいと口々に言われていました。



気になる後期高齢者

医療制度

高齢者から聞こえてくる声。

この制度は、医者にかかりにくくしている。掛かりつけの医者って何なのさ。それをつくってどうするのだ。今まで通りの医療が受けられるのか。

これは、「年寄りに早く死ね」ということではないか。

そういうことを耳にすると、この制度は高齢者に、当たり前には受け入れられていないことが分かります。

健康保険の赤字解消に介護保険をつくり、今年4月から後期高齢者医療制度をつくりました。

それは、いうまでもなく医療費削減のためです。

経済界は、健康保険への負担額が少なくなるから喜んでいるかもしれないが、新たに保険料を支払わなくなった高齢者には大きな負担を強いられます。二重苦です。

この制度は、考え直す必要があると思います。

アルミ空き缶の回収に感謝

アルミ空き缶やプルタブの回収に多くの方のご協力をいただいていることに心より感謝申し上げます。これからもよろしくご協力の程お願いいたします。

「やまね」とは

高齢者が気軽に立ち寄ってお茶でも飲み

ながら お話や五目並べ、編み物などが

できる場所(家)です。

来ていただくと誰か居ます。

それぞれが来たいときに来て、帰りたい

ときに帰る仕組みです。

開館日は月火木金 時間は10時～16時

利用料は1日300円です。